

## 参院選、得票率で前進

### 全国比例で440万票、日本共産党

7月29日の参議院選挙で、日本共産党は鈴鹿市・三重県では前回より得票数・得票率とも伸ばしたものの、全国的には440万票台にとどまり、比例選挙で3議席という残念な結果になりました。

鈴鹿市では選挙区の中野たけしさんは前回票を1300票余増やし、比例代表区でも5000票を超えて、担当の井上さとし議員の再選に貢献しました。

自民・公明の安倍政権への批判の声は、鈴鹿でもひじょうに大きなものがありました。とくに6月の住民税増税では、年金生活の市民から「年寄りから取り立てるとはひどい」の声が続出しました。また赤城大臣の事務所費のインチキ、久間大臣の暴言、それを正せない安倍首相の弱腰などに「もう自民党はあかん」のムードが広がりました。しかし投票では、いちばん自民党に対決して頑張る日本共産党よりも、野党第1党の民主党に票が集中するという結果になりました。

選挙後にある市民の方から「私は終生無党派でいきますが、今回は中野さん、比例は貴党に入れました。」とのお手紙をいただきました。4月の地方選につづいて寄せられた市民の期待と支持にこたえて、さらにながらばっていいと思います。

#### 2007年参議院選挙・鈴鹿市での開票結果

	中野たけし	得票率%	日本共産党	得票率%
07年参院	6855	7.95	5023	5.87
05年衆院	5624	5.66	5270	5.76
04年参院	5548	6.37	4389	5.11

# 18年度一般会計決算、11億円も黒字

平成18年度の一般会計決算見込みが、7月の市議会全員協議会で報告されました。詳細は、9月議会に正式議案として出されてからの審議で明らかになります。

決算見込みによると、3月の最終補正予算額552億円に比べて、歳入では4億円増の556億円、歳出では12億円減の540億円、その収支差額16億円から翌年度に繰越す5億円を引いて、出た黒字額は11億円にもなります。

## 基金（貯金）も6億円ふえて、147億円にも

さらに歳入増の中身をたずねると、税収が8億円増、譲与税など国からの交付金が10億円増となり、その分、財源不足として繰り入れる予定だった財政調整基金と減債基金の10億円が不要となりました。18年度当初には20億円もの「財源不足」を予定して基金からの繰り入れを予算化していたのが、まったく手付かずで残り、さらに18年度黒字から6億円を積み増しすることになり、現在の基金残高は、141億円 + 6億円 = 147億円にもなります。

## 大きな黒字、基金の一部を市民の暮らしに使い

この決算の数字だけを見れば、鈴鹿市は県内トップクラスの「健全財政」ということになります。しかし、行政サービスの中身、福祉や教育、医療介護などのレベルは低いままで上げる努力を十分にせず、せっせと貯金を増やし続けている、ということができません。

かつて京都府知事だった蜷川虎三氏は、「名誉の赤字、不名誉の黒字」という名言を残しています。やるべきことをせずに財政を黒字にするのは恥ずかしいことだ、という意味です。4月の地方選で共産党は「140億円もの貯金を市民のために使い」と主張しましたが、まさに「カネがあるかないか」ではなく、「やる気があるかないか」が問われてきます。

## 決算議会は9月定例会に前倒しに

これまで11月臨時議会で行われてきた決算審査が、今年から9月定例会で行われます。決算の内容を来年の予算に反映するための前倒しです。

## 国保会計も黒字基調、基金10億円

国民健康保険特別会計の18年度決算見込みも出されました。国保税の2年連続引き下げの2年目でしたが、決算はなんとか5千万円余の黒字で、支払準備基金10億円には手をつけずにすみしました。依然として県下3位という高い税額のために、収納率は現年度分で87.51%と9割を割っています。基金10億円を使ってさらに引き下げをすることが求められています。

## 中廊下方式・北側の教室はどうか？ 神戸中の移転改築案をみる

全面移転改築をすすめている神戸中学校の新校舎基本設計の図面が、市議会全員協議会で示されました。

全体を2階建てとし、管理棟を東向き（グラウンド向き）、教室棟を学年ごとに3棟南向きに配置し、1階を特別教室、2階を普通教室にしています。また体育館とプール、武道場を一体にしてプールを2階に配置しているのが特徴です。

図面を見て気になったのは、校舎の真ん中を廊下にして、両側に教室を配置している点で、半分は南向きになるが半分は北向きになるのです。夏場の風通し、冬場の日当たりが心配です。2階の屋根に天窗を大きくとり、北側の教室にも日当たり風通しが配慮されているとの説明でしたが、実際にうまくいくのか疑問が残ります。冷暖房設備は付けないということなので、余計に心配になります。今後は、この案を基本に実施設計となり、来年度に着工、22年4月に完成・開校となる予定です。

## 新給食センターは10月から工事に

岡田町に移転新築する給食センターについても、説明がありました。新センターは鉄骨造2階建て、2781㎡で、最大6千食を調理できます。「ドライ方式」という床面に水を落とさない方法で、衛生管理、作業効率、健康管理を良くします。すでに入札を終え、9月議会で議決後に工事着工、来年の9月に完成・業務開始となる予定です。今後市内に3つ作るセンターの1つ目という位置づけで、鈴鹿市の自校方式給食をなくす計画は問題です。

ずいそう

## 不屈の闘士・宮本さん

日本共産党の元議長・宮本顕治さんが、98才で亡くなったニュースを聞いて、「ああ、ミヤケンさんもついに」と衝撃を感じた。私の世代の共産党員、70年代ごろに活動をともした者にとってミヤケンさんは、仰ぎ見るような存在であった。なんとと言っても「獄中12年」、戦前のはげしい弾圧にも屈せず、反戦平和・民主主義をつらぬいた闘士として、党内外から尊敬されていた。日本での社会主義をめざす道は、選挙で多数を得て、多くの国民による統一戦線が進むとして、ソ連型でも中国型でもない「自主独立路線」を示し、当時の共産党の躍進を理論的にも実践的にも指導した。

### 風格あふれる姿、スジを通すことの大切さ

初めて実物の宮本さんを見たのは、72年10月静岡市での大演説会だった。宮本委員長が舞台に現れると、周囲の空気がピリッと引き締まったように感じた。その時64才、ズングリした体からあふれるエネルギーに圧倒された。このごろの2代目3代目の小粒な政治家とは違う「風格」があった。

私は宮本さんの著書「日本革命の展望」を何度も読んだ。（今も書架にある。）毎年1月1日赤旗紙上で、その年の政治経済社会の課題や方向を語った「新春インタビュー」も、説得力があった。それは科学的な見方による「大局観」というものか、いろいろな困難があっても、社会は前進していくという理論的確信というものだったと思う。

いわゆる「宮本路線」の生命力をいちばん感じたのが、91年8月のソ連共産党解体という事態を受けて、日本共産党が出した声明であった。世界に巨大な害悪を流しつづけた党のおわりを「もろ手をあげて歓迎すべき歴史的出来事である」と、言い切ったのである。それまで「腐っても鯛」というか、ソ連も一応社会主義を標榜していて、良いこともあったのではと思っていた私は、ソ連覇権主義と体を張って30年たたかってきた宮本さんの「スジを通す」姿勢を再認識した。牢獄にあらうと、世界で「孤立」しているように見られようと、スジを通して進めば、最後には勝利できるのだということ。この宮本さんの哲学は、ソ連崩壊後に登場した志位さんにもしっかりと受け継がれている。私も一党員として、それを誇りに思っている。